

沿 革

比企広域消防本部イメージキャラクター
ひきまる



比企広域消防発足までの歩み

1 東松山市消防本部の主な沿革

昭和40年	4月	東松山市消防本部及び署が設立され、消防長に市長中里勇吉氏が就任し、消防職員14名、消防ポンプ自動車1台をもって、発足した。
昭和43年	3月	救急車（A型）を購入、救急業務を開始した。また、消防力の強化を図るため化学消防ポンプ自動車を購入配備した。
昭和47年	10月	東松山市、吉見村、滑川村は、消防事務を共同処理することに合意し、規約（議決）により、名称を東松山地区消防組合と定め、消防一部事務組合を設立し、組合管理者に東松山市市長中里勇吉氏が就任した。

2 東松山地区消防組合の主な沿革

昭和48年	4月	東松山地区消防組合消防本部及び東松山消防署を設置し消防長に岡田義三氏が任命され職員総数55名をもって業務を開始した。 高坂出張所完成（鉄筋コンクリート造2階建一部3階、延べ面積297.75㎡）職員12名、水槽付消防ポンプ自動車1台、予備車1台をそれぞれ配備、業務を開始した。
昭和49年	7月	吉見出張所完成（鉄筋コンクリート造2階建、延べ面積350.68㎡）職員16名、水槽付消防ポンプ自動車1台、予備車1台をそれぞれ配備、業務を開始した。
	8月	組合管理者に、東松山市市長芝崎亨氏が就任した。
	11月	吉見出張所に救急車1台配備した。
昭和50年	1月	滑川出張所完成（鉄筋コンクリート造2階建、延べ面積373.00㎡）職員17名、水槽付消防ポンプ自動車1台、救急車1台をそれぞれ配備、業務を開始した。

昭和50年	8月	関越高速自動車道供用開始に伴い、滑川出張所救急業務を開始した。
昭和55年	10月	東松山地区消防組合消防本部及び東松山消防署新庁舎完成（鉄筋コンクリート造2階建、延べ面積1,554.10㎡）業務を開始。同時に北分遣所の業務を開始した。
昭和61年	1月	組織等の改正により「吉見出張所」・「滑川出張所」を「吉見分署」「滑川分署」に改めた。
平成	元年 4月	松山北分署完成（鉄筋コンクリート造2階建、延べ面積509.04㎡）職員10名、水槽付消防ポンプ自動車1台、救急車1台をそれぞれ配備、業務を開始した。
平成	4年 3月	高坂分署完成（鉄筋コンクリート造2階建、延べ面積604.71㎡）職員10名、水槽付消防ポンプ自動車1台、救急車1台をそれぞれ配備、業務を開始した。

3 小川地区消防組合の主な沿革

昭和46年	4月	<p>（組合設立）</p> <p>小川町、嵐山町、玉川村、都幾川村及び東秩父村の2町3村は消防事務について共同処理することに合意し、組合格約により、名称を小川地区消防組合と定め消防の一部事務組合を設立した。組合管理者に小川町長田口勘造氏が就任した。</p> <p>（業務開始）</p> <p>小川地区消防組合消防本部及び小川消防署を設置し派遣職員2名、採用職員27名、消防ポンプ自動車1台、消防指令車1台をもって業務を開始した。</p>
	8月	小川消防署に水槽付消防ポンプ自動車1台配備した。
昭和47年	4月	小川地区消防組合消防本部及び小川消防署新庁舎完成（鉄筋コンクリート造2階建、延べ面積741.90㎡）職員58名、救急車1台を購入配備した。

	4月	第1分署完成（鉄筋コンクリート造2階建、延べ面積296.00㎡）職員13名、水槽付消防ポンプ自動車1台、救急車1台をそれぞれ配備、業務を開始した。
昭和48年	4月	第2分署完成（鉄筋コンクリート造2階建、延べ面積301.80㎡）職員13名、水槽付消防ポンプ自動車1台、救急車1台をそれぞれ配備、業務を開始した。
昭和49年	5月	第3分署完成（鉄筋コンクリート造2階建、延べ面積247.34㎡）職員10名、水槽付消防ポンプ自動車1台、救急車1台をそれぞれ配備、業務を開始した。
昭和57年	6月	組合管理者に、小川町長松本繁夫氏が就任した。

4 比企広域消防本部が設立されるまでの沿革

平成	2年	2月	比企広域消防の設立を推進するため、専門委員会を設置した。
平成	3年	3月	東松山地区消防組合消防本部内に比企広域消防準備室を設置し職員5名（東松山地区3名、小川地区2名）配置した。
		12月	構成市町村議会において、統合関係議案が議決された。
平成	4年	2月	比企広域市町村圏組合議会において消防関係条例等の議決がなされ統合事務が終了した。

比企広域消防本部の歩み

平成4年		
4月1日		東松山地区消防組合と小川地区消防組合は、比企広域市町村圏組合において消防事務を共同処理することに合意し、名称を比企広域消防本部と定め、管理者に東松山市長芝崎亨氏が就任した。
〃		比企広域消防本部は、1市4町3村（東松山市、滑川町、嵐山町、小川町、都幾川村、玉川村、吉見町、東秩父村）で発足。組織1本部（3課）、2消防署、7分署の体制で業務を開始した。
〃		初代消防長（比企広域市町村圏組合事務局長兼務）に八木原昇一氏が就任した。
〃		新規採用17名、職員総数205名となる。
8月18日		連絡車（トヨタ ハイエースワゴンカスタム）を購入し、小川消防署に配備した。
12月21日		化学消防自動車Ⅱ型（三菱）を購入し、東松山消防署に更新配備した。
平成5年		
2月5日		指揮車（日産 キャラバン）を購入し、東松山消防署に更新配備した。
3月31日		4年度内中途採用1名、退職者1名、職員総数205名となる。
4月1日		新規採用5名、比企広域市町村圏組合事務局より職員3名補充、職員総数213名となる。
6月1日		比企広域市町村圏組合事務局へ職員1名出向、職員総数212名となる。
12月22日		水槽付消防ポンプ自動車及び移動無線機10Wを購入し、東秩父分署に更新配備した。
平成6年		
3月23日		消防緊急通信指令施設Ⅱ型及び自動出動編成、地図検索、情報交換等をコンピュータ処理できるよう整備し、運用開始した。
3月31日		5年度内退職者3名、職員総数209名となる。
4月1日		新規採用11名、職員総数220名となる。
7月20日		連絡車（日産 ADバン）を購入し、嵐山分署に更新配備した。
8月4日		指令車（トヨタ カルディナ）を購入し、小川消防署に更新配備した。
8月5日		比企広域市町村圏組合管理者に、東松山市長坂本祐之輔氏が就任する。
平成7年		
2月10日		救急車（ⅡB型）を購入し、小川消防署に更新配備した。
2月28日		救急車（高規格）を購入し、東松山消防署に更新配備した。
3月28日		水槽付消防ポンプ自動車（Ⅱ型）を購入し、松山北分署に更新配備した。
3月31日		6年度内退職者5名、職員総数215名となる。
4月1日		新規採用12名、比企広域市町村圏組合事務局より1名補充、職員総数228名となる。
〃		比企広域市町村圏組合職員定数条例の一部を改正する。 （消防職員定数245名に改める。）
〃		第2代消防長に岡部英雄氏が就任する。

平成7年	
6月16日	連絡車(トヨタ カムリ)を東松山危険物防火安全協会より寄贈を受ける。
7月21日	査察車(トヨタ マークIIバン)を購入し、消防本部予防課に更新配備した。
10月23日	連絡車(トヨタ コロナ)を小川地区防火安全協会より寄贈を受ける。
11月8日	23時30分頃吉見町大字下細谷950番地2号、東洋製罐株式会社埼玉工場の高さ30.9m、延べ面積4,154㎡のラック式自動倉庫から発生した火災において、翌日未明、消火活動中の職員2名殉職、消火協力者1名死亡する。 殉職者 消防司令長 新井伸夫(43歳) 消防士長 高橋 通(22歳) 消火協力者 可児慎治氏(27歳)
12月20日	東松山市中央公民館において、殉職者2名の消防葬を執行した。
12月22日	救助工作車(II型)を購入し、東松山消防署に更新配備した。
平成8年	
1月31日	救急車(II B型4WD)2台購入し、吉見分署・都幾川分署に更新配備した。
3月31日	7年度内退職者等4名(内殉職者2名・出向者1名)、職員総数224名となる。
4月1日	新規採用12名、職員総数236名となる。
〃	比企広域消防本部の組織等に関する規則の一部を改正する。 (予防課に調査指導係を置き3係とした。)
6月24日	連絡車(トヨタ カルディナ)を購入し、吉見分署に更新配備した。
7月30日	連絡車(日産 セレナ)を購入し、消防本部管理課に配備した。
11月6日	比企広域市町村圏組合消防慰霊祭が執行された。
平成9年	
1月20日	救急車(高規格)を購入し、小川消防署に更新配備した。
2月7日	救急車(II B型)を購入し、滑川分署に更新配備した。
3月31日	8年度内退職者1名、職員総数235名となる。
4月1日	新規採用6名、職員総数241名となる。
〃	埼玉県(消防学校)へ職員1名派遣、職員総数240名となる。
5月27日	連絡車(トヨタ カローラ)を購入し、消防本部管理課に配備した。
6月9日	指令車(三菱 ギャラン)を購入し、東松山消防署に更新配備した。
〃	連絡車(日産 ADバン)を購入し、滑川分署に更新配備した。
11月6日	比企広域市町村圏組合消防慰霊祭が執行された。
平成10年	
3月31日	9年度内退職者2名、職員総数238名となる。
4月1日	比企広域市町村圏組合職員定数条例の一部を改正する。 (消防職員定数255名に改める。)
〃	新規採用4名、職員総数242名となる。
4月1日	埼玉県内における携帯電話119番通報受信・転送業務を開始した。
6月18日	保安車(三菱 レグナム)を購入し、消防本部予防課に配備した。
11月4日	比企広域市町村圏組合消防慰霊祭が執行された。

平成11年	
3月31日	10年度内退職者1名、職員総数241名となる。
4月1日	嵐山分署新庁舎完成（鉄筋コンクリート造2階建一部鉄骨造6階建、延べ面積1,200.70㎡）職員20名、水槽付消防ポンプ自動車1台、救急車1台、連絡車1台をそれぞれ配備し、業務を開始した。
〃	新規採用6名、職員総数247名となる。
10月28日	地震体験車を購入し、嵐山分署に配置した。
11月30日	消防ポンプ自動車（CD-I型）を購入し、東松山消防署に更新配備した。
平成12年	
3月21日	救急車（高規格）を財団法人日本損害保険協会より寄贈を受け、嵐山分署に更新配備した。
3月23日	調査車（三菱 レグナム）を購入し、消防本部予防課に更新配備した。
3月31日	指揮車（トヨタ ハイエース）を購入し、小川消防署に更新配備した。
〃	11年度内退職者6名、職員総数241名となる。
4月1日	職員1名の派遣を解き、新規採用7名、職員総数249名となる。
〃	第3代消防長に関根敏正氏が就任する。
〃	比企広域消防本部の組織等に関する規則の一部を改正する。 （警防課指令係を指令課に改め4課とした。） （警防課に研修・施設係を置き2係とした。）
5月18日	マイクロ（日産 キャラバン）を東松山危険物防火安全協会より寄贈を受ける。
7月19日	資機材搬送車（三菱 キャンター）を購入し、東松山消防署に更新配備した。
7月25日	救急車（高規格）を購入し、松山北分署に更新配備した。
11月20日	指令課の地図検索システムを更新した。
12月20日	水槽付消防ポンプ自動車（I-A型）を購入し、吉見分署に更新配備した。
〃	救急車（II B型）を購入し、高坂分署に更新配備した。
平成13年	
3月31日	12年度内退職者3名、職員総数246名となる。
4月1日	職員1名の派遣を解き、新規採用5名、職員総数252名となる。
8月7日	連絡車（三菱 ミニキャブバン）を購入し、松山北分署に更新配備した。
10月1日	吉見分署新庁舎完成（鉄筋コンクリート造2階建一部鉄骨造6階建、延べ面積1,529.84㎡）職員20名、水槽付消防ポンプ自動車1台、救急車1台、連絡車1台をそれぞれ配備し、業務を開始した。
平成14年	
1月30日	水槽付消防ポンプ自動車（II型）を購入し、小川消防署に更新配備した。
3月31日	13年度内退職者4名、職員総数248名となる。
4月1日	新規採用5名、職員総数253名となる。
5月22日	比企広域消防本部設立10周年式典及び、幼年消防クラブ発足式が東松山中央公民館にて举行された。
8月8日	指揮車（トヨタ ランドクルーザー）を購入し、東松山消防署に更新配備した。
9月1日	比企広域消防本部ホームページを開設、IT情報サービスを開始する。

平成15年	
1月20日	水槽付消防ポンプ自動車(Ⅱ型)を購入し、高坂分署に更新配備した。
3月20日	消防本部庁舎の一部149.65㎡を増築し、延べ面積2,471.16㎡となる。
3月31日	14年度内退職者2名、職員総数251名となる。
4月1日	新規採用4名、職員総数255名となる。
11月7日	第6回全国消防広報コンクール「ホームページ部門」において最優秀賞を受賞する。
平成16年	
2月19日	化学消防ポンプ自動車(Ⅱ型)を購入し、嵐山分署に更新配備した。
3月31日	15年度内退職者6名、職員総数249名となる。
4月1日	新規採用4名、職員総数253名となる。
〃	第4代消防長に安野泰治氏が就任する。
8月20日	小川消防署ときたま分署庁舎完成(鉄筋コンクリート造2階建一部4階建、延べ面積999.90㎡)職員20名、水槽付消防ポンプ自動車1台、救急車1台、連絡車1台をそれぞれ配備し、業務を開始した。
9月1日	八都県市合同防災訓練埼玉県会場が、東松山市正代地内にて実施される。
9月24日	連絡車2台(ニッサンADバン)を購入し、嵐山分署及び、ときたま分署に更新配備した。
11月19日	第7回全国消防広報コンクール「ホームページ部門」において最優秀賞に選ばれ、2年連続の受賞となる。
平成17年	
1月24日	救急車(災害対応高規格)を購入し、東松山消防署に更新配備した。
2月28日	水槽付消防ポンプ自動車(Ⅱ型)を購入し、ときたま分署に更新配備した。
3月31日	16年度内退職者4名、職員総数249名となる。
4月1日	新規採用6名、職員総数255名となる。
〃	比企広域市町村圏組合職員定数条例の一部を改正する。 (消防職員定数270名に改める。)
〃	第5代消防長に須藤勇氏が就任する。
平成18年	
2月2日	救急車(高規格)を購入し、吉見分署に更新配備した。
2月20日	調査車(ニッサンキャラバン)を購入し、東松山消防署に配備した。
3月31日	17年度内退職者5名、職員総数250名となる。
4月1日	新規採用8名、出向者1名、職員総数257名となる。
〃	消防署の組織等に関する規程などの一部を改正する。 (両消防署の当直組織を2課制とし、火災調査や立入検査等の事務分掌を改正した。)
〃	都幾川村と玉川村の合併に伴い小川消防署ときたま分署を小川消防署ときがわ分署に改称する。
10月7日	庁用車(ニッサンティアナ)を購入し、消防本部管理課に更新配備した。
11月22日	水槽車を購入し、東松山消防署に更新配備した。
12月26日	水槽付消防ポンプ自動車(Ⅱ型)を購入し、滑川分署に更新配備した。

平成19年

- 1月 5日 水槽車を購入し、小川消防署に更新配備した。
- 2月 22日 救急車（高規格）を購入し、ときがわ分署に更新配備した。
- 1月 24日 2ヶ年計画による消防本部用地総合整備事業が完了した。
（敷地面積 17,532.36 m²）
- 3月 30日 支援車（Ⅲ型）を新規導入し、消防本部警防課へ配備した。
- 3月 31日 18年度内退職者6名、職員総数251名となる。
- 4月 1日 新規採用8名、職員総数259名となる。
- 11月 9日 第10回全国消防広報コンクール「ホームページ部門」において最優秀賞に選ばれ、3度目の受賞となる。

平成20年

- 3月 13日 救急車（高規格）を購入し、小川消防署に更新配備した。
- 3月 14日 救急車（高規格）を購入し、滑川分署に更新配備した。
- 3月 31日 19年度内退職者8名、職員総数251名となる。
- 〃 消防緊急通信指令施設改修工事2ヶ年計画、19年度分を完了する。
- 4月 1日 職員2名の出向を解き、比企広域市町村圏組合事務局へ職員1名出向し、新規採用9名、職員総数261名となる。
- 6月 25日 連絡車（三菱 ランサーカーゴ）を購入し、吉見分署に更新配備した。
- 7月 22日 指令車（トヨタ カローラ）を購入し、小川消防署に更新配備した。
- 7月 31日 消防本部に防災車庫棟（鉄骨造2階建、延べ面積200.0 m²）が完成した。
- 11月 17日 水槽付消防ポンプ自動車（災害対応特殊水槽付Ⅱ型）を購入し、東秩父分署に更新配備した。
- 12月 10日 消防ポンプ自動車（CDⅠ型）を購入し、小川消防署に更新配備した。

平成21年

- 3月 6日 救急車（高規格）を購入し、東秩父分署に更新配備した。
- 〃 連絡車（ニッサン セレナ）を購入し、消防本部管理課に更新配備した。
- 3月 9日 救助工作車（Ⅱ型）を購入し、小川消防署に更新配備した。
- 3月 12日 消防緊急通信指令施設改修工事2ヶ年計画が完了した。
- 3月 31日 20年度内退職者9名、職員総数252名となる。
- 4月 1日 埼玉県へ1名出向、1名派遣し、新規採用12名、職員総数263名となる。
- 7月 22日 連絡車（ホンダ パートナー）を購入し、滑川分署に更新配備した。
- 9月 2日 指令車（トヨタ カローラ）を購入し、東松山消防署に更新配備した。
- 11月 25日 水槽付消防ポンプ自動車（災害対応特殊水槽付Ⅱ型）を購入し、松山北分署に更新配備した。

平成22年

- 3月 2日 はしご車（30m級）を購入し、東松山消防署に更新配備した。
- 3月 5日 消防庁長官表彰にて、表彰旗を受章する。
- 3月 19日 連絡車（ニッサン ティーダ）を2台購入し、消防本部管理課、小川消防署に更新配備した。
- 〃 マイクロ（トヨタ ハイエース）を購入し、消防本部管理課に更新配備した。

平成22年

- 3月31日 21年度内退職者12名、職員総数251名となる。
- 4月1日 職員1名の出向を解き、比企広域市町村圏組合事務局へ職員1名出向し、新規採用14名、職員総数265名となる。
- 〃 第6代消防長に小林敏扶氏が就任する。
- 8月5日 比企広域市町村圏組合管理者に、東松山市長森田光一氏が就任する。

平成23年

- 2月25日 救急車（災害対応高規格）を購入し、嵐山分署に更新配備した。
- 3月1日 救急車（高規格）を購入し、高坂分署に更新配備した。
- 3月11日 東日本大震災発生に伴い、緊急消防援助隊を岩手県陸前高田市に計6隊18名、福島県本宮市に計8隊24名を派遣する。
- 3月13日 救助工作車（Ⅱ型）を購入し、東松山消防署に更新配備した。
- 3月16日 連絡車（トヨタ ハイエース）を購入し、小川消防署に更新配備した。
- 3月31日 22年度内退職者14名、職員総数251名となる。
- 4月1日 職員3名の出向並びに派遣を解き、埼玉県へ職員2名派遣し、新規採用13名、職員総数265名となる。
- 〃 第7代消防長に内田公生氏が就任する。

平成24年

- 2月28日 化学消防ポンプ自動車（Ⅱ型）を購入し、東松山消防署に更新配備した。
- 3月17日 救急車（高規格）を購入し、松山北分署に更新配備した。
- 3月21日 保安車（トヨタ カローラ）を購入し、消防本部予防課に更新配備した。
- 3月31日 23年度内退職者14名、職員総数251名となる。
- 4月1日 職員1名の出向を解き、東松山市へ職員1名派遣、比企広域市町村圏組合事務局へ職員1名出向し、新規採用14名、職員総数265名となる。
- 〃 第8代消防長に旭修三郎氏が就任する。
- 6月9日 比企広域消防本部設立20周年記念式典を開催した。
- 6月26日 連絡車（トヨタ プリウス）を購入し、消防本部警防課に更新配備した。
- 10月10日 小川消防署新庁舎完成（鉄筋コンクリート造2階建一部鉄骨造2階、延べ面積2,660.11㎡）職員42名、指令車1台、指揮車1台、資機材搬送車1台、救助工作車1台、連絡車2台、はしご車1台、水槽車1台、水槽付消防ポンプ自動車1台、消防ポンプ自動車1台、救急車1台、調査車1台をそれぞれ配備し、業務を開始した。

平成25年

- 3月31日 24年度内退職者17名、職員総数248名となる。
- 4月1日 職員1名の派遣を解き、総務省へ職員1名派遣、埼玉県へ職員1名派遣、新規採用15名、職員総数263名となる。
- 〃 第9代消防長に須長信夫氏が就任する。
- 11月25日 消防ポンプ自動車（CD-I型）を購入し、東松山消防署に更新配備した。

平成26年

- 2月28日 はしご車（屈折20m級）を購入し、小川消防署に更新配備した。
- 3月31日 25年度内退職者9名、職員総数254名となる。

平成26年	
4月 1日	職員3名の派遣並びに出向を解き、埼玉県へ職員1名派遣、比企広域市町村圏組合事務局へ職員1名を出向、新規採用12名、職員総数266名となる。
9月17日	資機材搬送車（日野 デュトロ）を購入し、東松山消防署に更新配備した。
9月19日	防災体験車を購入し、消防本部警防課へ配備した。
12月24日	救急車（高規格）を購入し、東松山消防署に更新配備した。
平成27年	
1月20日	査察車（ホンダ フィット）を購入し、消防本部予防課に更新配備した。
2月17日	消防救急デジタル無線設備設置工事が完了し、運用を開始した。
2月25日	地震体験車を購入し、嵐山分署に更新配備した。
3月 9日	消防緊急指令施設の表示パネル（車両運用表示盤・支援情報表示盤・多目的の情報表示盤・映像制御装置）を更新し運用を開始した。
3月13日	指揮車（トヨタ ハイエース）を購入し、小川消防署に更新配備した。
3月31日	26年度内退職者13名、職員総数253名となる。
4月 1日	職員2名の派遣を解き、埼玉県へ職員1名派遣、新規採用13名、職員総数266名となる。
7月 1日	滑川分署新庁舎完成（鉄筋コンクリート造2階建一部6階建、延べ面積1,219.66㎡）職員20名、水槽付消防ポンプ自動車1台、救急車1台、連絡車1台をそれぞれ配備し、業務を開始した。
平成28年	
3月 4日	消防緊急指令施設（指令装置・表示盤・指令伝送装置・災害状況等自動案内装置・音声合成装置・システム監視装置・統合型位置情報通知システム・監視カメラ運用）を更新し運用を開始した。
3月 9日	救急車（高規格）を購入し、吉見分署に更新配備した。
3月18日	水槽付消防ポンプ自動車（災害対応特殊水槽付Ⅱ型）を購入し、吉見分署に更新配備した。
3月31日	27年度内退職者10名、職員総数256名となる。
4月 1日	職員1名の出向を解き、新規採用13名、職員総数270名となる。
平成29年	
1月19日	消防緊急指令施設のディスプレイ（車両表示端末装置・出退表示入力端末装置・指令情報受信装置）を更新し運用を開始した。
3月11日	救急車（災害対応高規格）を購入し、ときがわ分署に更新配備した。
3月15日	指揮車（トヨタ ハイエース）を購入し、東松山消防署に更新配備した。
3月21日	救急車（高規格）を購入し、滑川分署に更新配備した。
3月24日	水槽付消防ポンプ自動車（災害対応特殊水槽付Ⅱ型）を購入し、小川消防署に更新配備した。
3月31日	28年度内退職者13名、職員総数257名となる。
4月 1日	職員1名の派遣を解き、埼玉県へ職員1名派遣、新規採用12名、職員総数269名となる。
〃	第10代消防長に吉野勝己氏が就任する。

平成30年

- 2月19日 救急車（高規格）を購入し、小川消防署に更新配備した。
- 3月6日 東秩父分署新庁舎完成（鉄骨造2階建、延べ面積462.71㎡）職員11名、水槽付消防ポンプ自動車1台、救急車1台、連絡車1台をそれぞれ配備し、業務を開始した。
- 3月31日 29年度内退職者9名、職員総数260名となる。
- 4月1日 職員1名の派遣を解き、埼玉県へ職員1名派遣、比企広域市町村圏組合事務局へ職員1名出向し、新規採用8名、職員総数267名となる。
- 〃 第11代消防長に小林明雄氏が就任する。
- 12月25日 水槽付消防ポンプ自動車（災害対応特殊水槽付Ⅱ型）を購入し、高坂分署に更新配備した。

平成31年

- 2月8日 救急車（高規格）を購入し、嵐山分署に更新配備した。
- 3月31日 30年度内退職者1名、職員総数266名となる。
- 4月1日 職員1名の派遣を解き、埼玉県へ職員1名派遣、新規採用3名、職員総数269名となる。
- 〃 比企広域市町村圏組合職員定数条例の一部を改正する。
（消防職員定数286名に改める。）

令和元年

- 12月11日 松山北分署庁舎の大規模改修工事が完了した。

令和2年

- 1月15日 救急車（高規格）を購入し、松山北分署に更新配備した。
- 1月21日 化学消防ポンプ自動車（災害対応特殊化学Ⅱ型）を購入し、嵐山分署に更新配備した。
- 3月31日 元年度内退職者3名、職員総数266名となる。
- 4月1日 職員1名の出向を解き、比企広域市町村圏組合事務局へ職員1名出向し、新規採用7名、職員総数273名となる。
- 7月15日 無人航空機ドローン（DJI Mavic）を購入し、東松山消防署と小川消防署に配備し、運用を開始する。
- 9月11日 連絡車（トヨタ ピクシスメガ）を購入し、ときがわ分署に更新配備した。
- 10月1日 指令課Net119緊急通報システムを導入し運用を開始する。
- 12月16日 救急車（高規格）を購入し、東松山消防署に更新配備した。

令和3年

- 2月3日 救急車（高規格）を購入し、高坂分署に更新配備した。
- 3月31日 2年度内退職者7名、職員総数266名となる。
- 4月1日 職員1名の派遣を解き、埼玉県へ職員1名派遣、新規採用6名、職員総数272名となる。
- 5月1日 埼玉西部消防組合、坂戸・鶴ヶ島消防組合、比企広域市町村圏組合及び西入間広域消防組合は、消防指令業務を共同処理するため、埼玉西部地域消防指令事務協議会を設置する。
- 〃 埼玉西部地域消防指令事務協議会へ職員1名派遣する。

